

福知山市
次世代育成支援に関するニーズ調査

【結果報告書】

平成21年 3月
福 知 山 市

目次

I 調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	2
2 調査の概要.....	2
3 報告書の見方.....	3
4 調査結果の概略.....	4
II 調査結果（就学前児童・小学生児童調査）.....	13
1 対象者（回答者）の属性.....	14
2 保護者の就労状況について.....	21
3 保育サービスについて（就学前）.....	32
4 土日の保育サービスについて（就学前）.....	43
5 放課後児童クラブ等について（小学生）.....	46
6 病児・病後児保育について.....	61
7 一時預かりについて.....	65
8 宿泊を伴う一時預かりについて.....	69
9 ベビーシッターについて.....	73
10 ファミリーサポートセンターについて.....	74
11 地域子育て支援拠点事業について（就学前）.....	78
12 育児休業制度について.....	83
13 職業生活と家庭生活の両立について.....	87
14 子育て支援サービスについて.....	92
15 子育て全般について.....	98

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、平成 21 年度に行う「福知山市次世代育成支援計画」（後期計画）の策定資料として、保育ニーズや福知山市の子育て支援サービスの利用状況や利用意向、また、子育て世帯の生活実態、要望・意見などを把握することを目的に、市民意向調査（アンケート調査）として実施しました。

2 調査の概要

- 調査地域 : 福知山市全域
- 調査対象者 : 福知山市内在住の「未就学児」をお持ちの世帯・保護者（就学前児童調査）福知山市内在住の「小学生」をお持ちの世帯・保護者（小学生児童調査）
- 抽出方法 : 住民基本台帳より、就学前児童（0 歳～5 歳）1,800 人、小学生（6 歳～11 歳）1,800 人の合計 3,600 人を無作為抽出
- 調査期間 : 平成 21 年 1 月 16 日（金）～平成 21 年 1 月 30 日（金）
- 調査方法 : 郵送配布・郵送回収による郵送調査法

	配布数	回収数	回収率
就学前児童保護者	1,800	790	43.9%
小学生児童保護者	1,800	769	42.7%
合計	3,600	1,559	43.3%

3 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

(※その他留意点)

- 図表中の就労類型については、調査設問を以下のように定義し、分析したものです。

【就労類型別】

定義	問7(1) 父親	問7(2) 母親
共働き	選択肢1～3	選択肢1～3
父のみ就労	選択肢1～3	選択肢4、5または不明
母のみ就労	選択肢4、5または不明	選択肢1～3
父母無職	選択肢4、5または不明	選択肢4、5または不明

4 調査結果の概略

■対象者の属性

《年齢、学年、子どもの人数》

就学前児童の属性については、「0～6歳」がそれぞれ1割程度、子どもの数は「1～2人」いる家庭が8割以上となっています。

小学生児童の属性については、「1～6年生」がそれぞれ1割程度、子どもの数は「2～3人」いる家庭が約8割となっています。

《同居・近居の状況（世帯構成）、子どもを預かってもらえる状況》

同居・近居の状況については、就学前児童、小学生児童ともに「父母同居」が8割を超えており、「祖父近居」「祖母近居」が3～4割程度、「祖父同居」「祖母同居」が1～2割程度となっています。

子どもを預かってもらえる状況については、就学前児童、小学生児童ともに「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族に預かってもらっている」が5割を超えており、「日常的に祖父母等の親族に預かってもらっている」が3割程度となっています。

そのうち、祖父母等に預かってもらっている状況についてみると、小学生児童よりも就学前児童の方が祖父母の負担を気にしているなど、やや預けにくさを感じていることがうかがえます。

また、友人・知人に預かってもらっている状況についてみると、就学前児童、小学生児童ともに、祖父母等に預かってもらう場合に比べて、心苦しさを負担を心配している割合が高くなっており、精神的負担を感じていることがうかがえます。

《身の回りの世話をする人、居住年数》

子どもの身の回りの世話を主にする人については、就学前児童、小学生児童ともに、6割以上が「母親」となっています。

■保護者の就労状況

《保護者の就労状況》

保護者の就労状況については、父親では、就学前児童、小学生児童ともに「就労している（フルタイムの就労）」が7割を超えています。

また、就学前児童の母親では、「以前は就労していたが、現在は就労していない」、小学生児童の母親では「就労している（パートタイム・アルバイト等）」がそれぞれ4割を超えており、子どもの年齢が高くなるとともに、就労する母親が増えている状況がうかがえます。

《母親の就労希望》

就労していない母親の今後の就労希望については、就学前児童、小学生児童ともに、約7割以上が「有（すぐにでも若しくは1年以内、または、1年より先で子どもがある程度大きくなったら）」と回答しており、希望する就労形態については、「パートタイムによる就労」が8割近くを占めています。

■保育サービスについて（就学前児童）

《保育サービスの利用》

就学前児童で現在、保育サービスを「利用している」と回答した方は、全体の5割を超えています。

また、保育サービスを「利用している」人について、就労類型別にみると、[共働き]または[母親のみ就労]が8割を超えており、年齢別にみると、年齢が高くなるにつれ利用度も高くなる傾向がうかがえます。

《保育サービスの種類》

利用している保育サービスの種類については、「保育所」が8割以上で、保育サービスのなかで特に割合が高くなっています。

また、現在利用している保育サービス種類について、就労類型別にみると、[共働き]または[母親のみの就労]では「保育所」の利用が9割以上となっており、[父親のみの就労]では「幼稚園」の利用が3割近くとなっています。

《現在保育サービスを利用している理由・利用していない理由》

保育サービスを利用している理由については、「就労している」という理由が7割以上で、特に高くなっています。その割合を就労類型別にみると、[父のみ就労]では「子どもの教育のため」に保育サービスを利用する傾向が強く、[共働き]や[母のみ就労]では「就労している」理由が高くなっており、利用理由は教育と就労で2分する傾向となっています。

一方、現在利用していない理由としては、「(保護者が家にいるなどの理由で) 必要がない」への回答が特に高くなっています。

《今後利用したい保育サービス》

今後利用したい保育サービスの種類については、「保育所」「一時預かり」の利用を希望する割合が3割以上となっており、「保育所」における希望日時をみると、1週あたり「5日」、1日あたり「8時間以上（おおむね8時から18時の間での利用）」への割合が高くなっています。

今後利用したい保育サービスの種類について、就労類型別にみると、[父のみ就労]では「保育所」「一時預かり」の利用意向が高く、[共働き]や[母のみ就労]では「病後児保育（施設型）」への利用意向が高くなっています。

また、今後保育サービスを利用したい理由については、「現在就労している」が1割程度と、項目の中では高くなっています。

《土日の保育サービスの利用》

土日の保育サービスの利用については、土曜日では3割以上が「ほぼ毎週利用したい」「月に1～2回は利用したい」となっています。日曜日・祝日については、2割未満となっています。

土曜日について利用したい割合を就労類型別、世帯構成別にみると、[母親のみ就労]と[母同居（ひとり親家庭）]では「ほぼ毎週利用したい」「月に1～2回は利用したい」の割合が約5割を占めています。

■放課後児童クラブについて（小学生児童）

《放課後児童クラブの利用》

小学生児童で現在、放課後児童クラブを「利用している」と回答した方は、全体の1割程度となっています。利用している理由については、「現在就労している」が9割以上で特に高くなっています。

放課後児童クラブを「利用している」人について、就労類型別、地区別にみると、[共働き]や[母親のみ就労]、[夜久野][川口][桃映]で「利用している」割合が比較的高くなっています。

あわせて学年別にみると、利用している学年は[1～3年]が2割以上で、[4～6年]については、少ない割合となっており、低学年での利用度が高い傾向がうかがえます。

《放課後児童クラブを利用していない理由》

現在、放課後児童クラブを「利用していない」と回答した方は、全体の8割となっています。利用していない理由については、「現在就労していないから（保護者が家にいるから）」が3割近くとなっています。

また、地域別にみると、[北陵][川口]では、ごく少数ではありますが、「近くに放課後児童クラブがないから」に回答がみられます。

《未利用者の放課後児童クラブの今後の利用意向》

現在、放課後児童クラブを利用していない人の今後の利用意向については、1割程度が今後「利用したい」と回答しています。

今後「利用したい」人を就労類型別、学年別、地区別にみると、[父親のみ就労][父母無職]、[1年]、[北陵][桃映][南陵][日新][川口]では、他の層と比べて割合が高くなっています。

また、今後の土曜日における利用意向については、約3割が「ある（利用したい）」と回答しています。

土曜日の放課後児童クラブを利用したい人について、就労類型別、学年別、地域別にみると、[母親のみの就労][父母無職]、[1年][5年]、[北陵][夜久野][桃映]での割合がそれぞれ高くなっています。（※サンプル数が少ない項目もあるため注意）

今後、放課後児童クラブを利用したい理由については、「現在、就労している」が4割以上、「そのうち就労したいと考えている」が3割近くで高くなっています。

《小学4年生以降の放課後児童クラブの利用意向》

小学生児童のうち、小学4年生以降の放課後児童クラブの利用意向については、2割程度が「利用したい」と回答しており、学年別にみると、高学年ほど「利用したい」割合が低い傾向がうかがえます。なお、放課後児童クラブを利用したい学年の上限については、「6年生」と答えた割合が約8割を占めています。

《子どもが小学生になった際の放課後児童クラブの利用意向》※就学前児童のみ

就学前児童のうち、子どもが小学生になった際の放課後児童クラブの利用意向については、6割以上が「利用したい」と回答しており、就労類型別にみると、[共働き]や[母親のみの就労]で「利用したい」割合が高い傾向がうかがえます。

そのうち、土曜日の放課後児童クラブの利用意向は約3割となっており、特に[母親のみ就労]での割合が高くなっています。

■ 病児・病後児保育について

《子どもが病気やケガで保育サービスが利用できなかったり、学校を休んだ経験の有無》

就学前児童では約4割、小学生児童では1割程度が子どもの病気やケガで、保育サービスの利用が制限されたり、学校を休まなければならなかったことが「あった」と回答しています。就労類型別にみると、就学前児童の[共働き]や[母親のみ就労]において、「(そのような経験が)あった」と答えた割合が5割以上で、特に高くなっています。

《その場合の対処法と今後の利用意向》

その際の対処法としては、就学前児童、小学生児童ともに「母親が休んだ」が高くなっており、その日数については、就学前児童が「7日以上」、小学生児童が「1～3日」程度が高い割合となっています。

なお、「父親が休んだ」「母親が休んだ」「親族・知人に預けた」といった対処法を行った人で、その際、施設に預けたかった日数については、就学前児童では「7日以上」、小学生児童では「3日以内」に占める割合が高くなっています。

■ 一時預かりについて

《一時預かりの状況》

就学前児童では2割以上、小学生児童では2割未満が一時預かりの経験が「ある」と回答しています。世帯構成別にみると、就学前児童、小学生児童ともに[母同居(ひとり親家庭)][父母同居]、そのほか[近居]での割合が高くなっています。年齢(学年)別にみると、就学前児童では年齢が高い方の割合が高く、小学生児童では学年が低い方の割合が高くなっており、対照的な傾向を示しています。

また、一時預かりを行った際の理由別の対処日数については、『私用(買い物、習い事)、リフレッシュ目的』や『就労』といった理由で「7日以上」、『冠婚葬祭、子どもの親の病気』では「1日」程度の割合が高くなっています。

また、小学校児童の一時預かりの今後の利用意向については、利用したい日数として「3日以内」への割合が比較的高くなっています。

■ 宿泊を伴う一時預かりについて

《子どもを泊まりがけで家族以外の誰かに一時的に預けた経験の有無》

就学前児童、小学生児童ともに1割程度が宿泊を伴う一時預かりの経験が「ある」と回答しています。就業類型別にみると、就学前児童、小学生児童ともに[共働き][母親のみ就労]において、「あった」がやや高くなっています。年齢(学年)別にみると、就学前児童では年齢が高い方の割合が高く、小学生児童では学年が低い方の割合が高くなっており、対照的な傾向を示しています。

《対処方法と、預けた際の困難度》

宿泊を伴う一時預かりを行った際の対処方法については、就学前児童、小学生児童ともに、『(同居者を含む)親戚・知人に預けた』が6割以上となっており、その泊数については就学前児童で

は「7泊以上」、小学生児童では「1泊」程度の割合が高くなっています。

また、『(同居者を含む) 親戚・知人に預けた』際の困難度については、就業類型別にみると、就学前児童、小学生児童ともに[母親のみの就労]で「どちらかという困難」の割合が高くなっています。(※サンプル数が少数のため注意)

■ベビーシッターについて

《ベビーシッターの利用目的》

ベビーシッターの利用目的については、全体的に回答が少ないものの、就学前児童では「主たる保育サービスとして利用している」、小学生児童では「祖父母や近所の人・友人等に預かってもらえないときに利用している」といった項目に回答がうかがえます。

■ファミリーサポートセンターについて

《ファミリーサポートセンターの利用状況と今後の利用意向》

ファミリーサポートセンターの利用については、就学前児童、小学生児童ともに、利用者が1割未満となっています。利用する理由については、保育サービスとして利用、祖父母等に預かってもらえないときや緊急・外出の際などの目的で利用されています。

また、今後の利用意向については、「不定期であるが利用したい」への割合が就学前児童で約3割、小学生児童で約1割うかがえます。

■地域の子育て拠点について（就学前児童）

《子育て支援センター等の利用状況と今後の利用意向》

就学前児童の地域子育て支援拠点事業の利用については、「利用している」が1割程度となっており、週に「1回」程度の利用が多くなっています。

また、今後の利用意向については、「利用したい」と回答した割合は2割程度うかがえます。

■育児休業について

《育児休業の利用とその状況》

育児休業の利用については、就学前児童、小学生児童ともに、「母親が利用した」が2割程度となっており、就労類型別にみると、就学前児童では[共働き]での「母親が利用した」への割合が4割を超えています。

育児休業から復帰したときの子どもの月齢については、就学前児童、小学生児童ともに、「11～12ヶ月」への割合が4割を超えています。

《育児休業の取得、育児休業明けの保育サービスの利用状況》

育児休業の取得については、就学前児童、小学生児童ともに、「希望どおり取得できた」が7割以上となっていますが、「利用できなかった」が1～2割程度うかがえます。

育児休業明けの保育サービスの利用状況については、就学前児童、小学生児童ともに、「育児休業期間を調整せずに利用できた」と回答する人が4～5割程度で、就労類型別にみると[共働き][父母無職]の割合が高くなっています。

一方、就学前児童では[母親のみ就労]で育児休業明けの保育サービスの利用が「できなかった」とする回答が多く、小学生児童では[父親のみ就労]で「希望しなかった」への割合が高くなっています。

また、育児休業明けの保育サービスを「利用できなかった」と回答した人のうち、その際の対処方法については、就学前児童では「家族等にみてもらうことで対応した」が6割(9件)、小学生児童では「希望とは違う保育所を利用した」が4割(6件)となっています。

■職業生活と家庭生活の両立について

《父親・母親の「仕事時間」と「家事」「プライベート時間」の優先度(希望と現実)》

就学前児童、小学生児童ともに、『希望』では「家事(育児)時間を優先」への割合が高いのに対して、『現実』では「仕事時間を優先」への割合が高くなっています。就学前児童、小学生児童ともに、『現実』では、生活の中心が仕事の時間に偏っていることがわかります。

また、就労類型別にみると、[共働き]や[母親のみ就労]で特にその傾向が現れています。

《父親・母親の「仕事と子育てを両立する上で大変だと感じること」》

仕事と子育てを両立する上で大変だと感じることについて、就学前児童、小学生児童ともに、「自分や子どもが病気・ケガをした時に面倒をみる人がいない」「子どもと接する時間が少ない」がそれぞれ1～2割となっており、就労類型別にみると、[共働き]や[母親のみ就労]で特にその傾向が現れています。

■子育て支援サービスについて

《認知度・利用度・利用意向》

就学前児童では『①母親学級、パパ・ママ学級(両親学級)、育児学級』『②保健センターの情報・相談サービス』『④おひさまひろば』『⑨保育所の一時保育』『⑬保育所や幼稚園の園庭等の開放』『⑮児童館』『⑱市が発行している子育て情報誌』については、認知度が高い項目となっています。

そのうち、『②保健センターの情報・相談サービス』『⑬保育所や幼稚園の園庭等の開放』『⑮児童館』『⑱市が発行している子育て情報誌』については、特に利用度、利用意向についても高い項目となっています。

小学生児童では『①母親学級、パパ・ママ学級(両親学級)、育児学級』『②保健センターの情報・相談サービス』『④おひさまひろば』『⑨保育所の一時保育』『⑬保育所や幼稚園の園庭等の開放』『⑮児童館』『⑱市が発行している子育て情報誌』については、認知度が高い項目となっています。

そのうち、『⑮児童館』『⑱市が発行している子育て情報誌』については、特に利用度、利用意向についても高い項目となっています。

■子育て全般について

《食事について》

朝食のとり方については、就学前児童、小学生児童ともに「毎日食べる」の割合が9割程度を占めています。朝食をとらない理由としては、「時間がないから」「子どもの食欲がないから」への割合が高くなっています。

家族との食事をとる状況については、就学前児童、小学生児童ともに「毎日1回は、そろって食事をしている」が約6割となっており、世帯構成別にみると[(母同居(ひとり親家庭))]での割合が高くなっています。

《テレビ・ビデオの視聴時間やゲームの使用時間について》(小学生児童のみ)

小学生児童のテレビ・ビデオの視聴時間については、「1～2時間未満」への割合が4割以上を占めています。学年別にみると、「1～2時間未満」と回答する割合は、1～2年生で5割以上となっており、「3時間以上」と回答する割合は、[6年]で2割を超え、高くなっています。

テレビゲームやコンピューターゲームの使用時間については、「1～2時間未満」への割合が4割程度を占めています。年齢別にみると、「1～2時間未満」と回答する割合は、3～6年生で4割程度と高くなっています。

《子育てサークル等の参加について》(就学前児童のみ)

就学前児童の子育てサークル等の参加については、「現在は参加しておらず、今後も参加するつもりはない」が約5割となっています。

一方、「現在参加している」「現在は参加していないが、今後機会があれば参加したい」の合計は4割を超えており、就労類型別、年齢別にみると、[父親のみ就労]、[0歳～3歳]で特にその合計が高くなっています。

《子育てに関する不安や負担について》

子育てに関する不安や負担感については、就学前児童、小学生児童ともに「なんとなく感じる」の割合が4割以上で、「非常に感じる」と回答した割合と合わせると5割以上を占めています。

就労類型別にみると、就学前児童、小学生児童ともに、[母親のみ就労][父母無職]において「非常に感じる」と回答する割合が他の項目に比べて高くなっています。

また、子育てをする上での不安や悩みについては、就学前児童、小学生児童ともに、「子育てで出費がかさむ」「自分の自由な時間が持てない」への割合が高くなっています。

就労類型別にみると、就学前児童、小学生児童ともに、[母親のみ就労]において「子育てで出費がかさむ」「自分の自由な時間が持てない」への割合が他の世帯層と比べてやや高くなっています。また、年齢別にみると、就学前児童では、年齢が高くなるにつれ、「子育てで出費がかさむ」への割合が高くなっています。

《子育てしてよかったこと》

子育てをしてよかったことや喜びについては、就学前児童、小学生児童ともに、「子どもの成長をみるのが喜びである」「子どもとの交流が楽しい」「家庭の中が明るくなる」が共通して高い項目となっています。

《父親の子育て参加》

父親の子育てを行う状況については、就学前児童、小学生児童ともに「よくやっている」が4～5割を占めています。

就労類型別にみると、就学前児童、小学生児童ともに「共働き」において「よくやっている」への割合が高くなっています。

《子育てに関する相談相手》

子育てのことを相談する人については、就学前児童、小学生児童ともに「配偶者、パートナー」「その他の親族（親、兄弟姉妹など）」「隣近所の人、地域の知人、友人」への割合が5割以上を占めています。

就労類型別にみると、就学前児童、小学生児童ともに「共働き」や「母親のみ就労」において「職場の人」への割合が3～4割と高くなっています。

《子育てに関する情報の入手先》

子育てに関する情報の入手先については、就学前児童、小学生児童ともに「隣近所の人、地域の知人、友人」が7割以上で最も高く、次いで「保育所、幼稚園、学校」「親族（親・兄弟など）」の割合が4割以上を占めています。

就労類型別にみると、就学前児童では「共働き」「母親のみ就労」では「保育所、幼稚園、学校」への回答の割合が他の層と比べて高くなっています。また、年齢（学年）別にみると就学前児童では「0～2歳」において「インターネット」への割合が2割以上で、小学生児童では「1年～3年」において「保育園、幼稚園、学校」への回答の割合が6割以上となっています。

《外出の際、困ること・困ったこと、子どもの安全を守るために重要なこと》

外出の際、困ること困ったことについて、就学前児童では「トイレがオムツ替えや親子での利用に配慮されていないこと」「授乳する場所や必要な設備がないこと」「小さな子どもとの食事に配慮された場所がないこと」「買い物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所がないこと」については、小学生児童よりも特に割合が高くなっています。

小学生児童では「暗い通りや見通しのきかないところが多く、子どもが犯罪の被害にあわないか心配であること」「特に困ること・困ったことはない」が就学前児童よりも特に高くなっています。

就学前児童において年齢別にみると、オムツ替えや授乳、食事といった配慮は、比較的若い年齢で割合が高くなっています。小学生児童において地区別にみると、「三和」「日新」といった項目で「暗い通りや見通しのきかないところが多く、子どもが犯罪の被害にあわないか心配であること」への項目が高くなっています。

また、子どもの安全を守るために特に重要なことについてみると、就学前児童、小学生児童ともに「通学路や子どもの遊び場の安全対策」「地域ぐるみのパトロールなど子どもを犯罪から守るための取り組み」が4割以上で高くなっています。

《ふくふく医療費支給制度について》

市が実施している『ふくふく医療費支給制度』についての認知度についてみると、就学前児童、小学生児童ともに「知っている」が7割以上となっています。就労類型別にみると、就学前児童、小学生児童ともに「母親のみ就労」において「知らない」への割合が3割を超えています。

また、『ふくふく医療費支給制度』を何年生まで利用したいか（現：3年生まで利用可）については、就学前児童、小学生児童ともに「中学生の期間中も利用したい」が5割を超えています。

《市に期待する子育て支援》

市に対して、子育て支援の充実を図って欲しいと期待していることについてみると、就学前児

童では「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やして欲しい」「保育所や幼稚園にかかる費用負担を軽減して欲しい」が6割以上の項目となっています。

就労類型別にみると、[母親のみ就労]においてのみ、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やして欲しい」を望む割合が最も高く、そのほかについては「保育所や幼稚園にかかる費用負担を軽減して欲しい」が最も高くなっています。

世帯構成別にみると、[父同居（ひとり親家庭）][母同居（ひとり親家庭）]においては、「親子が安心して集まれる身近な場、イベントの機会が欲しい」「残業時間の短縮や休暇の取得促進など、企業に対して職場環境の改善を働きかけて欲しい」を望む割合が、ほかの層に占める割合よりも高くなっています。

年齢別にみると、特に[0～2歳]において、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やして欲しい」を望む割合が7割以上で高くなっています。

また、小学生児童では「子どもと一緒に出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい」「安心して子どもが医療機関にかかれる体制を整備してほしい」「保育所や幼稚園、教育費にかかる費用負担を軽減してほしい」「児童手当を増額してほしい」が5割以上の項目となっています。

就労類型別にみると、[父母無職]においてのみ、「児童手当を増額してほしい」を望む割合が最も高く、そのほかについては「保育所や幼稚園、教育費にかかる費用負担を軽減してほしい」が最も高くなっています。

世帯構成別にみると、[父同居（ひとり親家庭）]においては「残業の短縮や休暇の促進など企業に対して改善を働きかけてほしい」が3割以上、[母同居（ひとり親家庭）]においては「多子世帯の優先入居や住宅費の軽減など、住宅面の配慮がほしい」が2割以上で、ほかの層に占める割合よりも高くなっています。

学年別にみると、特に[1～3年生]において、「保育所や幼稚園、教育費にかかる費用負担を軽減してほしい」を望む割合が6割以上で高くなっています。